◇イベント報告◇

IFRS サステナビリティ・シンポジウム 2025 参加報告

SSBJ 専門研究員 斎藤　愛子
SSBJ 専門研究員 前田　桂司

1. はじめに

IFRS 財団は、2025 年 10 月 30 日に IFRS サステナビリティ・シンポジウム 2025 を開催した。今年の IFRS サステナビリティ・シンポジウムは、英国ロンドン会場における対面とオンラインのハイブリッド形式で開催された。シンポジウムには、45 以上の法域から代表者が集まり、「採用への道筋（Pathways to Adoption）」をテーマに、サステナビリティ関連財務開示の未来について議論した。サステナビリティ基準委員会（SSBJ）からは、一部研究員がオンラインで参加した。

本稿では、本シンポジウムの主要なセッションの概要について紹介する。なお、本稿における筆者の意見にわたる部分は、筆者の私見であり所属する団体・組織の公式見解ではないことをあらかじめ申し添える。

2. 全体のスケジュール

今回のシンポジウムの議題は、次のとおりであった。

	議題	担当
1	開会挨拶	Nicolai Lundy 氏（IFRS 財団）
2	歓迎の挨拶	Emmanuel Faber 氏（国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）議長）
3	ゲストからのメッセージ	Jean-Paul Servais 氏（証券監督者国際機構（IOSCO）議長）
4	対談	Patrick de Cambourg 氏（エフラグ（EFRAG）サステナビリティ報告審議会（SRB）議長） Sue Lloyd 氏（ISSB 副議長）
5	パネル・ディスカッション：企業及び規制当局の視点から ISSB 基準導入の戦略的便益	モデレーター：Veronika Pountcheva 氏（ISSB メンバー） パネリスト： Gülşah Günay 氏（KGK - Public Oversight,

イベント情報

	議題	担当
		Accounting and Auditing Standards Authority of Türkiye） Gad Mausolf 氏（欧州復興開発銀行（EBRD）） Ece Sevin 氏（アーンスト・アンド・ヤング（EY）トルコ） Özlem Ünlüer 氏（Beko）
6	つながりのある情報がなぜ重要なのか、またどのように機能するのか	Martin Bailey 氏（Heathrow Airport） Elisa Cencig 氏（Norges Bank Investment Management） David Boldersto 氏（ISSB テクニカル・ディレクター） Yulia Feygina 氏 （IASB テクニカル・ディレクター）
7	対談	Jane Goodland 氏（ロンドン証券取引所グループ） Richard Barker 氏（ISSB メンバー）
8	パネル・ディスカッション： 産業別開示の向上	モデレーター：Jeff Hales 氏（ISSB メンバー） パネリスト： Alison Bewick 氏（Nestlé） Lorraine Holleway 氏（Shell） Jonathan Bailey 氏（Neuberger Berman） Richard Manley 氏（CPP Investments）
9	スコープ 3 温室効果ガス排出の開示	モデレーター：Bing Leng 氏（ISSB メンバー） Jonathan Horrell 氏（Weir Group） Ciara Burke 氏（Accounting for Sustainability（A4S））
	自然関連開示をめぐるダイナミクス	Himani Phadke 氏（ISSB エグゼクティブ・テクニカル・ディレクター） Emily McKenzie 氏（TNFD テクニカル・ディレクター） Thomas Viegas 氏（Aviva）
	IFRS S1 号及び IFRS S2 号を適用した報告	ラウンドテーブル・ディスカッション
10	欧州及びグローバル市場で進行中の相互運用可能性	モデレーター：Sam Prestige 氏（ISSB テクニカル・スタッフ） Cristina Gil White 氏（グローバル・レポーティング・イニシアティブ（GRI）） Jenny Bofinger Schuster 氏（ISSB メンバー）
	人的資本プロジェクトの理解	Nicolaj Sebrell 氏（ISSB ディレクター） Charlotte Lush 氏（ISSB テクニカル・スタッフ）
	サステナビリティ開示の保証のナビゲート	ラウンドテーブル・ディスカッション

	議題	担当
11	基調講演	Charlotte Jones 氏（Aviva）
12	パネル・ディスカッション： 投資者の意思決定を支援するサステナビリティ情報	モデレーター：Katie Schmitz 氏（ISSB ディレクター） パネリスト： Herman Bots 氏（APG Asset Management） Bina Desai 氏（Columbia Threadneedle） Spencer Powell 氏（Just Climate） Evan Tylenda 氏（GS Sustain）
13	1 日の振返り	Richard Barker 氏（ISSB メンバー） Jenny Bofinger Schuster 氏（ISSB メンバー）

3. 議事概要

(1) 歓迎の挨拶

本セッションでは、ISSB 議長の Emmanuel Faber 氏により、法域ワーキング・グループ（Jurisdictional Working Group）の拡大が発表された。この取組みは、ISSB 基準がグローバル・パスポートとして機能し、世界の資本市場に利益をもたらし、国境を越えた新たな課題に対処できるよう、法域間の協議を促進することを目的としている。

ISSB は、ISSB 基準をグローバル・ベースラインとして活用したうえで、ISSB 基準を各法域の法令やニーズに合わせて調整することができるよう、各法域の規制当局と協力していく役割を担っているとの見解が示された。今後、新たな法域ワーキング・グループは ISSB 基準を採用又は使用している約 40 の法域を対象とし、グローバル・パスポート制度の議論を通じて、より関連性の高い情報の提供を可能にするとの見解が示された。

また、企業は、企業のレジリエンスやビジネス・モデルの持続可能性を追求するために、戦略的なトピック、すなわちビジネス・モデルを変更する可能性のあるトピックに焦点を当て、それらのトピックについて、企業内で報告し、予算を策定し、予測を見直し、リスクを管理し、ビジネスにおける機会を含む戦略及びガバナンスについて検討していく必要がある。そのためには、ISSB 基準をグローバル・パスポートとして活用することが非常に有用であるとの見解が示された。

(2) 対談

本セッションでは、EFRAG SRB 議長の Patrick de Cambourg 氏及び ISSB 副議長の Sue Lloyd 氏による対談が行われ、ESRS と ISSB 基準との相互運用可能性について議論がなされた。

Patrick de Cambourg 氏は、現在、エフラグは欧州委員会のオムニバス・パッケージの一環として ESRS を簡素化しており、ISSB 基準と改訂版 ESRS との間の高度な整合性を維持及び向上させるための取組みを進めていると述べた。また、教育的ガイダンス及び研修の必要性についても言及した。Sue Lloyd 氏は、ISSB 基準と ESRS の両方を適用する企業の効率性を向上させるため、相互運用性を確保することが重要であると述べた。

(3) つながりのある情報がなぜ重要なのか、またどのように機能するのか

本セッションでは、Heathrow Airport 社の Martin Bailey 氏、Norges Bank Investment Management 社の Elisa Cencig 氏、ISSB テクニカル・ディレクターの David Boldersto 氏及び IASB テクニカル・ディレクターの Yulia Feygina 氏により、つながりのある情報がなぜ重要なのか、サステナビリティ情報は財務諸表をどのように補完するのか、開示基準の適用はつながりのある情報の提供を促進させるのかなどについて議論がなされた。

議論では、財務諸表からだけでは、企業のレジリエンスや長期にわたって価値を創造する能力を理解することができないため、これらを理解するために、サステナビリティ情報という補完的な情報が必要である。例えば、移行リスク及び物理的リスクが、固定資産の耐用年数又は評価にどのような影響を与えるかを検討するだけでなく、それらが企業の戦略及びビジネス・モデルにどのような影響を与え、さらには企業の見通しにどのような影響を与えるかを検討することは、同じ事象を扱っているものの、異なる視点からアプローチしているため、補完的な情報を提供することになるなどの意見が述べられた。

また、開示される情報が有用であるためには、財務諸表とサステナビリティ情報との間に一貫性及び整合性があることが必要であるが、情報の一貫性及び整合性を促進するうえで、ISSB 基準の適用が非常に役立つと考えられ、報告主体、報告期間及びデータに関する仮定などが同じであるという根本的な原則は、シンプルに見えるが非常に重要であるなどの意見が述べられた。

(4) パネル・ディスカッション：産業別開示の向上

本セッションでは、ISSB メンバーの Jeff Hales 氏がモデレーターを務め、Nestlé 社の Alison Bewick 氏、Shell 社の Lorraine Holleway 氏、Neuberger Berman の Jonathan Bailey 氏及び CPP Investments の Richard Manley 氏をパネリストに迎え、産業別開示の向上について議論がなされた。

議論では、産業別開示によって、投資者は産業固有の観点を通して企業のビジネス活動に関連する固有のリスク及び機会を理解し、業界のベンチマークと比較したり、業界全体でパフォーマンスを比較したりできるため、特に投資者の意思決定に有用であることが強調された。

作成者の視点から、産業別開示の有用性は理解するが、同じトピックについて同じ基準を用いて開示できるようなグローバル・フレームワークに基づいた産業横断的なトピック別基準の構築がより重要であり、産業別基準は、その上にあってこそ強固なものになるとの意見が述べられた。また、IFRS 会計基準での成功体験を踏まえ、ISSB 基準がグローバル・フレームワークの役割を果たすことへの期待が強調された。

投資者の視点から、現在は投資意思決定において異なるデータを比較可能なものにするために多くの調整を行っているが、同じトピックについて同じ定義を用いて情報が開示されるようになれば、情報の比較可能性の観点から、大きな進展になるとの意見が述べられた。

(5) スコープ 3 温室効果ガス排出の開示

本セッションでは、Weir Group 社の Jonathan Horrell 氏により、スコープ 3 温室効果ガス排出の開示についてプレゼンテーションが行われた。プレゼンテーションでは、Weir Group 社におけるスコープ 3 の継続的な取組み、データ収集における課題、情報の透明性と保証、戦略への組込みなどについて説明がなされた。

その後、ISSB メンバーの Bing Leng 氏の進行のもと、A4S の Ciara Burke 氏も交えて質疑応答が行われた。質疑応答では、スコープ 3 の測定には非常に詳細な情報が必要となるため、サステナビリティ部門と財務部門との連携を高め、財務部門の役割を強化することが重要であることや、重要性があるカテゴリーに的を絞り、最初から完璧を目指そうとしすぎず、スコープ 3 排出削減までのタイムラインを設定し、全体像を把握しながら重要な項目に優先的に取り組むことが重要であることなどの意見が述べられた。

(6) 自然関連開示をめぐるダイナミクス

本セッションでは ISSB エグゼクティブ・テクニカル・ディレクターの Himani Phadke 氏より、自然関連開示に関する基準設定の必要性を検討している現在の ISSB の取組みについて、リサーチのフェーズ 1 及びフェーズ 2 における内容、並びに IFRS S1 号を基礎として TNFD フレームワークを活用するアプローチを検討中であることなどを中心に説明がなされた。

次に、TNFD テクニカル・ディレクターの Emily McKenzie 氏より、TNFD 提言及び関連するガイダンスの開発の背景に関する説明が行われた。この説明の中で、TNFD フレームワークは TCFD と姉妹的な関係にあり、開発過程において SASB スタンダード及び CDSB フレームワーク適用ガイダンスから豊富な学びを得ているため、ISSB 基準との親和性は高いとの見解が示された。また、自然関連のリスク及び機会に対する利害関係者の理解を支援するため、TNFD は、ガイダンス及び教育的資料の公表並びにトレーニング・セッションを提供しているとの説明がなされた。

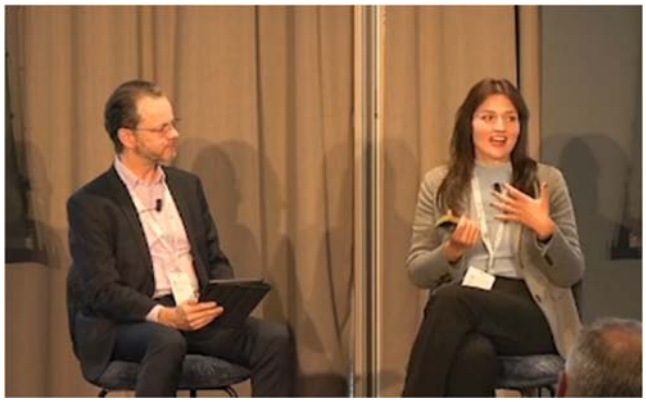
Aviva 社の Thomas Viegas 氏からは、利用者の視点から、TNFD フレームワークは既に広く利用されており、一貫性を保つためには、ISSB と TNFD フレームワークの連携は極めて重要だとの意見が述べられた。

(7) 人的資本プロジェクトの理解

本セッションでは、ISSB ディレクターの Nicolaj Sebrell 氏及び ISSB テクニカル・スタッフの Charlotte Lush 氏より、人的資本に関する ISSB による現在の基準開発に向けたリサーチ・プロジェクトの状況について説明がなされ、その後、質疑応答が行われた。

質疑応答において、人的資本の指標は地域によって用語及び定義が多様であるため、作成者にとってデータの収集及び開示情報の作成が難しく、また投資家にとって比較可能性の確保に困難を伴う分野であると認識しているとの意見が述べられた。ISSB は、既存の報告実務における困難性の理解に基づき、今後の基準開発において、用語及び定義を複雑化させないことに対してコミットしていくとの説明がなされた。

また、社会関連の情報を開示するためのグローバルなフレームワークを開発中の不平等・社会関連財務情報開示タスクフォース（TISFD）と ISSB による人的資本基準開発プロジェクトとの関係性について質問があり、ISSB より、TISFD とコミュニケーションを図りながら、目的が異なる作業を行わないようにすることに対してコミットメントしていくとの回答がなされた。



以　上